

# H003 人文学入門（常識を手放す旅 アジアから現代日本が見えてくる）

英名科目名	An Introduction to Humanities : Social and Cultural Issues in Contemporary Asia and Japan		
大学名	京都大学		
連絡先	文学研究科教務掛 TEL:075-753-2709 FAX:075-753-2719		
担当教員	児玉聡：京都大学文学研究科准教授 植田尚樹：大阪樟蔭女子大学非常勤講師、関西福祉科学大学非常勤講師 翁和美：大谷大学文学部社会学科 川寄陽：佛教大学非常勤講師、京都大学非常勤講師 柴田陽一：関西学院大学非常勤講師 福浦一男：滋賀医科大学非常勤講師 バクミギョン：京都大学非常勤講師 松谷実のり：京都大学非常勤講師		
開講期間	2016年09月27日(火)～2017年01月17日(火) 6講時 18時10分～19時40分（毎週火曜日）		
単位数	2	開講形態	後期・秋学期
履修年次	1-4回生		
会場	キャンパスプラザ京都		
授業定員	30	単位互換定員	30
試験・評価方法	平常点60点+レポート40点（ただし、2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない。）		
超過時の選考方法	最大60名まで受講可能の見込み。先着順。		
別途負担費用	なし		
その他特記事項	なし		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			

## 講義概要・到達目標

### 授業の概要・目的

本授業は、京都大学で学んできた新進気鋭の若手研究者がリレー形式で担当する。  
現代の日本を生きる若者は、就職や仕事、あるいは家族や結婚に関して、多くの問題に直面している。学生にとってすぐそこにあるこれらの問題をどのように考えていけばよいのだろうか。  
本授業では、現代日本をとりまくアジアへと視点を移し、身近にありながら異なる社会について学ぶことで、日本の「常識」を疑うことから始める。朝鮮半島、中国、タイといったアジアの国々の歴史や文化、社会のありようを学び、日本とも関係の深い諸外国に関する知識を身につけるとともに、ふだんとは異なる立場から物事を見る目を養っていく。学生による発表や質疑応答、ディスカッションなどのアクティヴ・ラーニングを活用することで、新しい視点を取り入れ、主体的に考え、課題を発見し、課題に共同で取り組む力も身につける。そして、こうして得た知識と能力をもとに、さまざまな観点から現代日本社会の諸問題について検討する。

### 到達目標

アジアを通して自分たちの社会を相対化し、より広い視野と深い洞察力をもって、現実の諸問題に対する解決策を模索できる主体となることが、この授業の目的である。学問的な知識や主体的な学びの方法を身につけると同時に、実際の課題に積極的に取り組む「生きる力」も涵養する。

## 講義スケジュール

### [授業計画と内容]

[1] イントロダクション(全員)：

### 文化と言語(植田)

[2] 言語はなぜこんなにも多様なのか  
[3] 日本語はどのような言語か

### 『国語』と『国民』(川寄)

[4] なぜ植民地の朝鮮人に日本語を話させるのか  
[5] どのような日本語をどのように話させるのか

中国の学校教育(柴田)

[6] 中国農村部における学校統廃合  
[7] 中国都市部における学校間格差

タイの宗教と社会(福浦)

[8] 上座部仏教と社会  
[9] 現代タイ社会と宗教

ドッケビを通して見る韓国視覚文化(バク)

[10] ドッケビを通して見る韓国視覚文化(1)  
[11] ドッケビを通して見る韓国視覚文化(2)

認知症と社会(翁)

[12] 認知症患者を「わかり合える」と見なす実践  
[13] 認知症患者を「わかり合える」と見なす実践の機制と意義

現代日本についての考えをまとめる(松谷)

[14] 現代日本の諸問題  
[15] レポートの書き方

教科書 授業中に指示する。

参考書 授業中に紹介する。